

● 緩和ケア ●

palliative care

緩和ケアは「がんの治療」と一緒に始めます

「緩和ケア」という言葉に、どのようなイメージを持っていますか？

「がん治療ができなくなった方への医療」「がんの終末期に受ける医療」と思っている方もまだまだ多いようです。



緩和ケアとは

がんなどの病気に伴うからだやこころの痛みを和らげ、生活の質やその人らしさを大切にする医療で、患者さんとご家族を対象とします。

緩和ケアチームとは

がんの診断時から療養中までに生じる様々な問題について支援するチームです。体と心のつらさなどの治療のほか、患者さんの社会生活や家族のサポートを行うために、医師・看護師・薬剤師・栄養士・理学療法士・医療ソーシャルワーカーなど様々な職種が協力しながらサポートしています。



痛み

吐き気

不安

便秘
下痢

などの体や心の痛みを取り除く治療

内服薬や点滴注射についての説明と副作用のチェック

基本的な動作や体力を維持するためのリハビリ

各種制度や福祉サービスの紹介や各関係機関との調整

自宅での療養を希望される方には、訪問看護や介護保険（ベッドなどの介護用品のレンタル）の紹介

● 緩和ケアチームのサポートを希望される方は、病院スタッフにお気軽にご相談ください。

● 外来がん化学療法 ●

「外来がん化学療法」とは

がん化学療法は、手術・放射線と並ぶがん治療の3本柱の一つであり、1. 治ること（根治的）、2. 延命・症状緩和の2つに大別されます。また目的として、①乳がん温存術のように手術前に腫瘍を縮小させて手術範囲を最小限にする術前化学療法、②胃・大腸・乳・卵巣がん等のように手術後の再発を抑制する術後化学療法、③食道・頭頸部・小細胞肺癌等のように放射線と同時に行うことで相乗効果を高める等があります。



当日の流れ(例)

受付

採血

治療

帰宅



前回治療の有害事象（副作用）は、有害事象共通用語基準（CTCAE v4.0）に基づき当日の治療ができるかどうか、患者様及びご家族・医師・看護師・薬剤師等で検討し患者様ご自身が決定する。

医師の指示に基づき薬剤師と看護師で確認後、薬剤師が薬を溶かし看護師が実施する。看護師は当日～今後予測される有害事象に対して観察・説明・指導を行う。

患者様個々に生じる有害事象に応じてセルフケアを継続し、次回治療予定まで日常生活を過ごす。

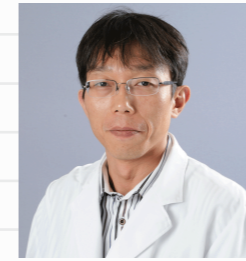
外来がん化学療法のメリットは、患者様が日常生活を送りながらできることです。しかし、副作用に悩まされ我慢している方を多く目にするのも現状です。一人で悩まずにがん化学療法室の看護師に気軽にお声かけください。

【がん看護専門看護師

：竹田 日記

Lesson 5

大腸がん



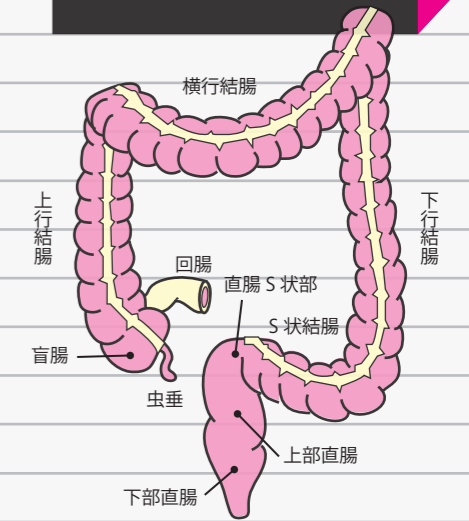
外科医長

山本 盛雄

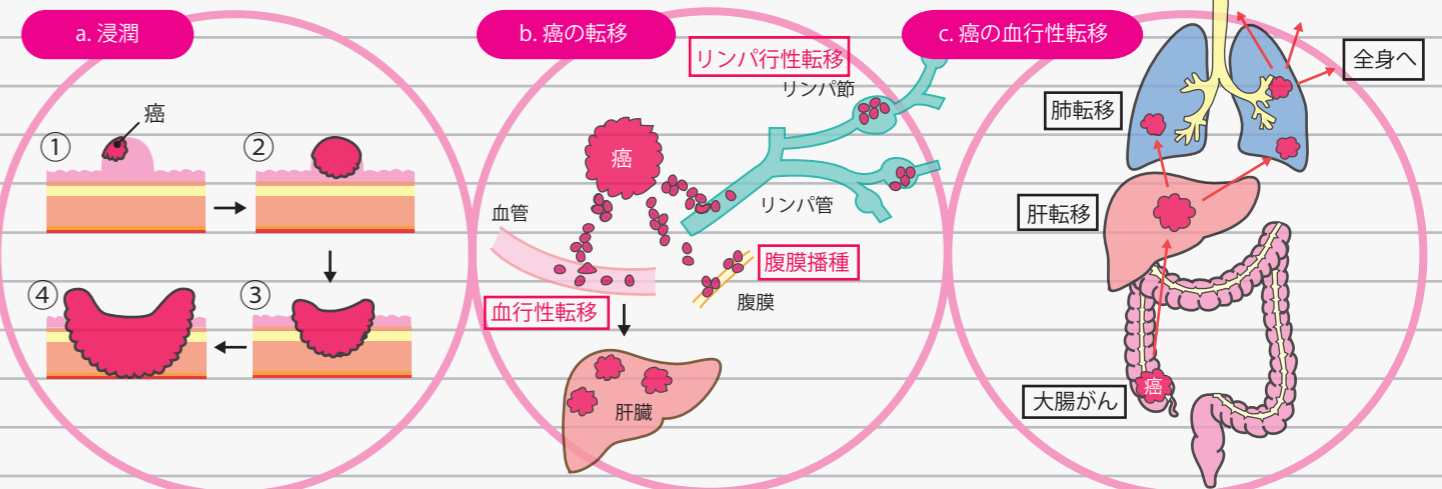
治療方針や検査・手術については十分な時間をとり、わかりやすく説明を行います。

大腸がん（結腸がん）と直腸がんを合わせた場合の死亡率は女性で第一位、男性では肺がん、胃がん、肝臓がんに次いで第四位です。大腸がんは大腸粘膜の細胞から発生します。大腸がんの発生には2つの経路があると考えられています。腺腫（ポリープ）ががん刺激を受けてがん化するもので、腺腫が連続して増殖してきます。もう一つは発がん刺激を受けた正常粘膜から直接にがんが発生する経路です。このがんは「デノボ癌（デノボとは「初めから、新たに」という意味のラテン語）と呼ばれています。ポリープから発生するがんの場合は、ポリープを切除することによりがんを阻止できますので、定期的な内視鏡検査と内視鏡的治療が非常に大切になってきます。

大腸がんの疫学と発生する仕組み



【大腸がんの拡がり方】

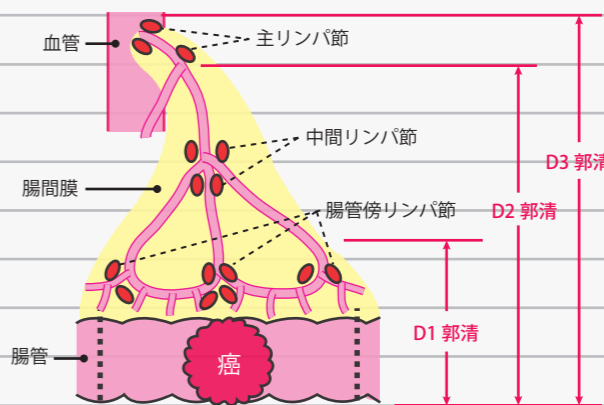


大腸がんは腸の一番内側の粘膜にできて、腸の壁を破壊しながらだんだん大きくなり、最後に腸の壁を突き破って周囲の臓器に拡がってゆきます。（浸潤）

離れた場所に飛び火して増殖することを「転移」といい、腸の静脈から離れた臓器に転移することを血行性転移といい頻度が高いのは肝臓や肺です。またリンパ管からがん細胞が途中のリンパ節に流れ着いて増殖することをリンパ行性転移といいます。増大したがんは壁を突き破って腸管を覆う腹膜に顔を出し、そこから腹腔内に散らばったがん細胞が芽を出すように大きくなることを腹膜播種（種が播かれるようにがんが転移すること）といいます。大腸がんの拡がり方は、浸潤・血行性転移・リンパ行性転移・腹膜播種があります。

【手術の意義は？】

大腸がんの手術意義は非常に重要です。手術により切除したもの（標本）で、大腸がんの拡がり方が確認できるからです。例えば、リンパ節転移が確認された場合（リンパ節転移は内視鏡では確認できません）、手術の後に抗がん剤治療が必要になる場合があります。もう一つの理由は、切除標本から遺伝子の発現が確認できるからです。現在、多くの抗がん剤の治療薬がありますが、遺伝子の発現の有無により抗がん剤の治療が大きく異なります。仮に再発した場合は、この切除標本が治療選択のため大切となります。



【大腸がんの手術】

手術治療では、腸管とリンパ節を切除します。がんの浸潤が周囲組織にまで及んでいる場合は、可能であればその臓器も一緒に切除します。腸管を切除した後は、残った腸管を吻合します（つなぎ合わせることを「吻合」といいます）。直腸がんが肛門近くにあつて腸管を吻合できない場合は人工肛門が必要です。現在の標準手術は、リンパ節郭清はD2郭清です。（左図参照）